



泉麻人さん

1956（昭和 31）年、東京都生まれ。慶応義塾大学商学部卒業後、東京ニュース通信社に入社。「週刊 TV ガイド」「ビデオコレクション」の編集者を経てフリーに。雑誌、新聞等を中心にコラムを執筆する一方、テレビにも出演し、コメンテーター、司会等を務める。

善福寺川の近くに住んでいる。もう十年余りになるけれど、日々散歩する川沿いの環境が気に入っている。ここに越してきたとき、まず澄んだ川の流りに感心した。もともと、奥多摩あたりの谷川と比べたら、水質は遥かに劣るかもしれないが、川底をつぶさに眺めていると、時折ザリガニがもそもそと動く姿を見ることがある。夏の盛りには、川の上をギンヤンマが往ったり来たりしていることもある。ヒヨドリやムクドリ、ハクセキレイ……といった野鳥の数も多い。美しいカワセミの姿も、これまで何度か目撃した。（カラスが一番多いのだけど……）

川沿いに、緑豊かな公園（善福寺川緑地、和田堀公園）が広がっているのもいいけれど、善福寺川の大きな魅力は、くねくねと湾曲した川筋だろう。わが家の近くはとりわけ袋状に曲がりくねった流域なので、歩いていると一瞬方向感覚を失う。これが面白い。目印にしていた高井戸の清掃工場の白い煙突が、おや？と思うような方角に出現する。下流の方に歩いていくと、カーブを切った川の先に忽然と新宿の高層ビル群が姿を現したりする。

とはいえ、かつてはこの蛇行する川筋のせいもあって、流域ではしばしば水害をこうむった……と聞く。和田堀池やその並びの釣り堀の池は、そもそも洪水によって生じた沼だったという。古い写真集などに記録された、護岸以前の川の景色を眺めると、ふとそんなのどかな時代にタイムスリップしてみたいものだ……と想ったりするけれど、まあそれはいたしかたないことだろう。深く掘りこまれて、石積みの護岸が施されたものの、大雨が降った翌日などは岸の淵から水が湧き出している光景を見る。これも周囲に雨水を吸い込む豊かな緑地が確保されているからに違いない。

善福寺川とその周辺の緑地……都心にしては上出来の環境、と思っているが、少しわがままをいわせてもらいたい。たとえば、初夏の頃になると、護岸の一面にみるみる雑草が繁る。田舎の川景色のまちなで気に入っているのだが、あっという間に電動ノコで刈られてしまいます。あれはなんとも惜しい。それから、公園のなかに敷かれたアスファルトの径も、ここが下草の生えた土や砂利の路面だったらもっと風情がでるのに……と思うような箇所がいくつかある。無論、小虫が湧いたり、ぬかるみで靴が汚れたり……といった多少の不便はでてくるだろうが、一考の余地はあると思う。

杉並区を中心に横断する善福寺川、今後いっそう、他区の人がうらやむ素晴らしい川になって欲しい。